

【実践報告】

北海道で働く元留学生社会人のキャリア意識（第一篇）

——中国語圏からの元留学生社会人に対するインタビュー調査を手掛かりとして——

菅 原 良^{*}
渡 部 淳^{**}

Career awareness of former international students working in Hokkaido (Vol.1)

- Based on an interview survey with former international students from Chinese-speaking countries -

Ryo Sugawara^{*}
Makoto Watanabe^{**}

According to an interview survey conducted with former international students from Chinese-speaking countries who work in Hokkaido, there is little motivation for choosing Hokkaido as a study abroad destination, but when they come to Hokkaido as an international student, they are attracted to the natural environment and living environment. We think about getting a job in Hokkaido and trying to find a job, but there are problems such as lack of information on job hunting and job hunting that requires me to act individually. It has become clear that these problems can be solved by establishing a career development program for international students and a mechanism to support job hunting activities for international students in university.

1. 問題の所在

筆者らは、令和元年度北海道開発協会の研究助成を得て、北海道で働く中国語圏出身の元留学生社会人を対象とするインタビュー調査から、元留学生社会人のキャリア意識の構造を読み解こうとしてきた¹⁻¹³。その背景には、(1) 留学生が就職を希望する業種や職種と企業側ニーズとのミスマッチ、(2) 日本の雇用制度や企業文化に対する留学生の理解不足、(3) 就労環境の違い、などによって生じる低い定着率によって、長期間にわたるキャリア形成が困難になっており、道内企業への就職を希望する留学生が有効活用される環境が整っているとは言い難く、高い能力を持った中国語圏出身の留学生を北海道経済の振興に活用しきれず、道外に流出させてしまっているのではないかという問題意識がある（渡部、菅原 2020）。本研究では、北海道内で就労する元留学生13名（旅行5、旅行関連2、広告宣伝1、人材紹介1、小売2、製造1、重複回答あり）に対して、2019年6月、10月、11月、2020年1月に半構造化インタビューによる調査を行った。そのうち、6月と10月に行ったインタビュー調査の分析から次のことが明らかになっている（渡部・菅原 2020）。

- i) 北海道を留学先に選択した動機は希薄である
- ii) (自然環境・生活環境などに魅力を感じて)北海道で就職することを考え、就職活動を試みる
- iii) しかし、就職活動に関する情報の不足
- iv) 個人で行動せざるを得ない就職活動
- v) 選択余地の少ない業種と職種

* 明星大学明星教育センター Meisei Education Center, Meisei Univinternationalersity

** 北海道文教大学外国語学部 Faculty of Foreign Languages, Hokkaido Bunkyo University

本稿では、これらのことが2019年11月に行ったインタビュー調査からも言えるのかについて検討する。

2. 道内で就労する元留学生社会人のキャリア意識

インタビュー調査は、札幌市内で質問者2名(V、W)が女性2人(L、C)、男性1人(Li)に対して半構造化インタビューにより約90分間行った。20代の女性Lは、大学卒業後に登別温泉のIホテル、中国資本の家電量販店Xを経て、現在はアジア圏の顧客に対してインバウンドサポート、翻訳・通訳、語学スクールなどを運営するS社に勤務する。30代の女性Cは日本の大学に留学した経験はないが、2009年に就職することを目的として来道した。来道して一年目は白老にある土産店で働き、二年目からはLと同じ会社で働いている。現在の会社に就職して10年になり、語学スクール運営の責任者などを任せられている。台湾でレストランを経営する夫と生まれたばかりの子どもがいる。20代の男性Liは、本国で大学を卒業した後、北海道の大学院に2年間留学し、修了後、Lと同じIホテルに就職した。その後、札幌の旅行会社に転職し、現在は札幌市内の別の旅行会社に勤務する。主にアジア圏からの旅行客向けの旅行計画立案、アテンドなどを行っている。以下にインタビューの抜粋を示す。

V：今日はよろしくお願いします。

W：よろしくお願いします。それでは、インタビューを始めます。

Q1 V：日本の大学に留学して来たときは、同級生は何人ぐらい来たのですか。

A1 L：4人か5人ぐらいです。卒業して、みんな帰国しました。同じ大学から北海道に留学してきた同級生で北海道に残っているのは私しかいません。

Q2 V：大学を卒業して、I(登別温泉でホテルを営業する企業)に就職したのはLさんひとりで、あとは大学を卒業してみんな帰国してしまったのですね。

A2 L：そうです。

Q3 V：LさんはIに何年働いていたのですか。

A3 L：10カ月です。10カ月で辞めて、札幌に引っ越してXで2年半働きました。そこで主人(日本人)と知り合い結婚して退職しました。Xを辞めて起業するつもりでした。

Q4 V：起業して何をやるつもりでしたか。

A4 L：飲食店です。故郷の特別な料理を提供する店を開業するつもりでした。ただ、その時に体の調子が良くなっていったん止めました。現在はSでアルバイトをしています。故郷の特別な料理を提供するお店は、東京にひとつありますが、北海道にはまだこういう店がないので、狸小路とかにあったらきっと人気が出ると思います。

Q5 W：●●(本稿では、出身国を●●と表記する)出身の皆さんは、起業するというのがオプションにあるのですね。日本人はどこかで働いて安い給料をもらって、そのまま生きていけばいいみたいなところがありますが、皆さんは店主になったり社長になったり、もし成功したらラッキーみたいな感じでやる気があるのがいいことだなと思います。

A5 C：冒険する人は多いですね。

Q6 V：次はLiさん。よろしくお願いします。大学までは●●ということですね。

A6 Li：そうです。大学院から北海道に来ました。大学では日本語を専門にしていました。

Q7 V：日本語、上手ですね。

A7 Li：日本語を専攻したのは、大学のある町に日系企業が多くて、就職しやすいというところもありました。それから、いずれは外国に行こうと高校時代からずっと考えていました。大学を卒業して就職先を探したのですが、あまりいい機会がなくて。それでは日本に行こうかなと思ったとき、日本で会社を営し

ている親戚が勉強したかったら旅行（観光）はどうかとアドバイスされました。

Q8 W：ご親戚はどのような業種の会社を経営されているのですか。

A8 Li：貿易の仕事をしています。詳しくは分かりませんが、機械部品を取り扱っている会社です。そのときは旅行の専攻を調べてみたのですが、その頃は学校が少なかったです。北海道の大学に観光を学べる専攻があったので、受けようと思いました。

Q9 V：大学院で2年間勉強して、その後Iに入社したのですね。

A9 Li：そうです。2015年の3月に卒業して4月に入社しました。Lさんとは同期入社です。

Q10 V：そのときIに入社した●●出身の人は2人だけでしたか。

A10 Li：4人です。Iは●●から直接研修生を受け入れています、正社員で採用されたのは4人だけでした。

Q11 V：研修生を受け入れて、そのままよかったら働いてくださいという感じなのですか。

A11 Li：研修生は研修生です。1年半か2年間ぐらい。●●の専門学校と契約して、日本語を勉強している10代から20代の子たちがIに来て働いて、また向こうに帰る形です。

Q12 W：皆さんのように無期限で採用される人と、インターン制の二重構造のような、メインの人材と数を充当する人材と、というイメージでしょうか。

A12 Li：ひとつのホテルに研修生は5・6人ぐらいいましたか。

A12 L：6人ぐらい。

Q13 V：それで、なぜIに就職したのですか。大学を卒業して、日本で就職するのと帰国するのとありますが、帰国せずに日本に残ったのは、何か理由がありますか。

A13 L：北海道が好きなので。

Q13 W：みんな、そういう答えなの。今までインタビューしてきた人、ほぼ全員、北海道が好きだから残ったのだと答えています。

A13 Li：私は就職活動を始めたのが遅くて、面接とか、そのときは行けば受かると甘く考えていましたが、東京でかなり苦戦しました。最初はメーカーとか大手を狙っていて、いちばん良かったのが二次面接まで行ったものでした。東京はあまりいたくないなという気持ちもあって。

Q14 V：それでIに入社したのですか。

A14 Li：そうです。2015年の4月入社でしたが、採用が決まったのが2月ぐらいでした。Iと旅行会社のJを受けました。Jは返事がなくて、ビザの期限もそろそろで、とりあえず就職しようかという感じでIに入りました。

Q15 V：Lさんは、Iをどうやって探したのですか。

A15 L：大学卒業前に、小企業が集まる何の会というのか、いろいろ企業があって、私たちは申込書を書いていろいろな会社と話しました。Iはあのと募集していた男の子がハンサムだったので。Iはいいところがいっぱいあるよと、いろいろ親切に説明してくれて、外国人スタッフもたくさんいるから安心してとか、いろいろ話してくれました。この会社いいかもしれないと思い決めました。

Q16 V：LiさんはどのようにしてIを探したのですか。

A16 Li：札幌ドームであった、結構ぎりぎりまでまだ人を集めたい会社のイベントで探しました。

Q17 W：日本人も一緒にイベントですか。

A17 Li：そうです。

Q18 W：Lさんも日本人と一緒に就職イベントでしたか。

A18 L：留学生向けのイベントでした。札幌市内でありました。

A18 C：中小企業説明会ではないですか。そういうのをよく耳にします。

Q19 V：留学生向けのそういうイベントがあるのですか。

A19 L：ありました。留学生向けの中小企業説明会のようなイベントです。

Q20 V：そういうイベントにはどういう会社が来ているのですか。

A20 L: 結構ぎりぎりまで人を集めている会社。ホテルや飲食店が多いですね。

A20 C: ひとつのイベントに何十社も来ています。なので、結構参加している企業はあります。

Q21 V: それでは、次はCさんお願いします。Cさんは大学までは●●ですか。

A21 A: はい、●●です。

Q22 V: ●●で働いていて、東京とかではなく札幌にそのまま来られたのですか。

A22 C: そうです。その前に大学生のときにインターンシップで定山溪に来たことがあります。Jのプロジェクトで、定山溪のホテルで1年ぐらい働いていました。1年ぐらいいて、●●に帰って卒業して、●●で就職していたのですが、その同僚が札幌の会社が人を探しているから行かないかと言われ、札幌は来たことがありましたし、好きなので来ました。

Q23 W: 現在の会社にですか。

A23 C: 1年ぐらい白老にあるレストランにいました。とりあえず日本に来たかったので。レストランの仕事はあまり行きたくないところですが、1年ぐらい働き契約も1年更新でしたので。当時は若かったし、白老は田舎なので、辞めて札幌に来ました。

Q24 V: それはいつのことですか。

A24 C: 2009年です。日本に来て今年で10年になります。レストランに1年少しいて、2010年の年末に今の会社に入ったと思います。

Q25 W: 2010年に現在の会社に入ってから、どういうお仕事ですか。

A25 C: 当初は語学のスタッフとして入りました。今は語学教室の責任者をしています。人材紹介もしています。人材に関しては、雪祭りとかのイベントのときに、道庁や市からアンケート調査の仕事とか、そういうお仕事をいただいたときに、人を集めて一緒にアンケート調査の仕事をしたりします。

Q26 V: それでCさんはご結婚されて。

Q26 W: ご主人は●●の方ですか。

A26 C: 台湾です。台湾に旅行に行ったときに知り合い、結婚して子どもが生まれました。主人は台湾で働いているので、ひとりで子育てしています。私は北海道が大好きで、主人も北海道が大好きと言ってくれています。

Q27 W: ご主人はどんなお仕事をされているのですか。

A27 C: レストランを経営しています。将来は北海道に店を出そうかなという話をしています。元同僚も、別居婚が8年続いています。すごく仲が良くて、それを見てそういうのもありなのだなと思いました。

Q28 V: 皆さん、北海道が好きで残っているのですね。

A28 L: そうです。東京ではなくて北海道です。

Q29 V: みんな、そういうふうに言います。卒業して東京に行く人も結構いますが。

A29 L: 私はあまり知らないです。

Q30 V: 日本で皆さん働いていて、これからキャリアを積んでいくわけですが、やはり北海道で長く働きたいという気持ちはお持ちですか。

A30 L: 変わらないです。もうこれからずっと北海道にいるかもしれません。

A30 C: 変わらない。北海道にいるんじゃないですか。

A30 Li: 私的には、北海道を離れるときは日本を出るときだと思っています。

Q31 V: 旅行会社でどういう仕事をしているのですか。

A31 Li: 主に中国をはじめ、台湾や香港から来る方のホテルなど旅行の手配をしています。食事とか移動の車、貸し切りバスですとか小型の車の手配とか、あとは実際に来られるときに自分も添乗してアテンドして回っています。

Q32 V: 社長は日本人ですか。

A32 Li: そうです。

Q33 V: 仕事は楽しいですか。

A33 Li：はい。

Q34 V：今の仕事を始めて何年ですか。

A34 Li：今の仕事内容は3年間になりますが、今の会社は1年です。

Q35 V：今の会社ではなくて、もっとステップアップしてとか考えていないですか。

A35 Li：ぼんやりしたイメージです。どちらかといえば、この先は起業とか、そういう強い意思は全く持っていないです。実際どういうふうに形にするのかはまだ全然ない感じです。

Q36 V：Cさんは社長になることですか。

A36 C：そうです。日本に来て10年経つので、節目というか、家庭も落ち着いてきたので、起業しようとしていました。独立しようと思っていたのですが、今の会社で通訳の仕事とかいただいて現場に行っています。最近は医療通訳が増えていて、国際医療コーディネーターサービスというのがありますが、そういう系の会社に興味があって、起業しようかなと考えています。外国の患者さんがこちらの病院を探したりするので、そこからお手伝いするお仕事です。紹介やそういう手続きをしてあげることをしたいなと思っています。

Q37 V：LさんとLiさんは、日本で長い間働いているので、今はそんなに思わないかもしれませんが、就職してみたものの国が違ふ文化も違うから、ハードルが高いということがあったのではないと思うのですが。

A37 Li：Lさんは10カ月で辞めましたが、私は9カ月でもっと短かったです。同期の日本人を含めてトップ3に入るくらいのスピード退職だったと思います。同期入社は60人ぐらいいました。ハードルといえば、私の会社は特別だったかもしれません。いわゆる家族経営で、結構ブラックな話ですが、残業は最初に給料をもらったときに既に30時間分が含まれていました。その30時間があっても、仕事が終わらないのです。例えば、今日は10時から18時までと決められていても、自分の部署は電話に出つつ仕事をしているような状況でしたので、18時を過ぎれば電話が自動的にフロントにまわって、そこからようやく書類の整理、例えば旅行会社からのツアーの名簿の確認ですとか、人数の最終確認とか、食事の細かいこととか、一人ひとりの食べられないものなどのチェックはそこからスタートです。ですので、出勤管理システムに打刻してから仕事をしろと、いつも上司に言われるような感じでした。私は、打刻したら必ず帰るようにしていました。それで上司に目を付けられて。かわいがられてはいたのですが、あまりにも残業が多過ぎて、上司が社長に怒られたようです。そういう伝統的な日本企業的なところがあります。あと、最初は先輩たちから見ても変わり者だと思われていました。夜遅くに仕事が終わって、一杯行きませんかとか誘われても私は断っていました。その時に、日本人のように振舞えないと想いました。退職したいばんの大きな理由は、先が見えないということでした。ショックだったのは、新入社員のときに必ずお世話係が付いていて、私が入社して2カ月ぐらいいのときに、すごくできる3年目ぐらいいの先輩が退職しました。あんなに仕事ができる先輩でも辞めるのだと思い、札幌に帰りたいという名目で会社に辞めると言いました。そのときに人事が、辞めるなら札幌にも営業所があるから、そこに行ったらどうか。必ず行けるとは言えないけれど申請を出してみたらどうかと言われました。ですが、職場が変わってもあまり面白くないなと思い辞めてしまいました。

A37 L：私はLiさんのような勇気がありませんでした。だから、例えば、朝7時に出勤して、ずっと夜11時、12時まで働いても、残業代をもらえなかったです。先輩たちもそうしてきました。私は新人なので、なかなか言えなかったもので、ずっと我慢して10カ月で辞めました。

最初、1カ月で5キロくらい痩せました。忙しくて、お昼とか晩ご飯、もともと1時間の食事時間なのに、15分ぐらいで早く戻ってと言われるのです。もう大変でした。

Q38 V：それで会社を辞めて札幌に戻ってきたのですね。

A38 Li：それで、前の会社になりますが旅行会社に入りました。

Q39 V：今の会社とIで働いているのとでは、労働環境はどう違いますか。

A39 Li：残業代が出ないのは同じですが、残業が少ないのは楽です。Iは永遠に終わらないと思いました。24時間いても終わらない感じです。予約システムは常に稼働していて、いつ誰から予約が入ってくる

かわからない。機械の延長のところで働いている感じ。機械の予約システムを補っている感じでした。結局、日本人も含めて周りのみんなも辞めたいと思いながら仕事をしているのだと思います。私はそこがいちばん問題だと思います。辞めたければ辞めればいいのにとこの考え方なのですが。辞めないで、嫌々周りの人にも嫌な顔をしながら、お客さんにも嫌な顔しながら。だったら辞めたほうがいいかなと思って辞めました。結局、先輩たちには大変だったことを分かってもらえました。前の職場の先輩たちとは今でも連絡を取ったりして、割と仲良くできていたかと思います。ですので、職場の関係ではなくどちらかという自分の力で変えられないところに引っ掛かった感じです。（紙幅の都合から第二篇に続く）

注

- 1) 日本学生支援機構 (2014) 「平成26年度外国人留学生在籍状況調査結果」 (https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/08/date2014z.pdf) (2020.10.20 閲覧)
- 2) 日本学生支援機構 (2015) 「平成27年度外国人留学生在籍状況調査結果」 (https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/08/date2015z.pdf) (2020.10.20 閲覧)
- 3) 日本学生支援機構 (2016) 「平成28年度外国人留学生在籍状況調査結果」 (https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/08/date2016z.pdf) (2020.10.20 閲覧)
- 4) 日本学生支援機構 (2017) 「平成29年度外国人留学生在籍状況調査結果」 (https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/08/date2017z.pdf) (2020.10.20 閲覧)
- 5) 日本学生支援機構 (2018) 「平成30年度外国人留学生在籍状況調査結果」 (https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/08/date2018z.pdf) (2020.10.20 閲覧)
- 6) 日本学生支援機構 (2019) 「2019 (令和元) 年度外国人留学生在籍状況調査結果」 (https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/08/date2019z.pdf) (2020.10.20 閲覧)
- 7) この調査でいう「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、日本の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）、日本の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設及び日本語教育機関において教育を受ける外国人学生をいう。
- 8) 北海道総合政策部国際局国際課・経済部経済企画局国際経済室 (2019) 「北海道グローバル戦略 ～多様性と可能性を生かした確かな未来づくりへの挑戦～ 資料編」 (http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/promo/hokkaido_global_strategy_reference_data_201907.pdf) (2020.10.24 閲覧)
- 9) 北海道経済部観光局 (2015) 「北海道観光入込客数調査報告書 平成26年度」 (http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/toukei/H26_irikomi_honbun.pdf) (2020.10.24 閲覧)
- 10) 北海道経済部観光局 (2016) 「北海道観光入込客数調査報告書 平成27年度」 (http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/toukei/H27_irikomi_honpen_20160912.pdf) (2020.10.24 閲覧)
- 11) 北海道経済部観光局 (2017) 「北海道観光入込客数調査報告書 平成28年度 (2016年度)」 (http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/toukei/H28_irikomi_honbun.pdf) (2020.10.24 閲覧)
- 12) 北海道経済部観光局 (2018) 「北海道観光入込客数調査報告書 平成29年度 (2017年度)」 (http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/toukei/H29FY_irikomi_honbun_updt.pdf) (2020.10.24 閲覧)
- 13) 北海道経済部観光局 (2019) 「北海道観光入込客数調査報告書 平成30年度 (2018年度)」 (http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/H30_irikomi_honbun.pdf) (2020.10.24 閲覧)

謝辞

本研究は、北海道開発協会開発調査総合研究所平成31年度研究助成を受けたものである。

文献

渡部淳、菅原良 (2020) 北海道における中国語圏からの留学生および道内観光産業に就職する留学生のキャリア意識調査とキャリア形成プログラムの開発に関する一考察—北海道内の観光ホテル支配人と元留学生のインタビュー調査を手掛かりとして—、北海道開発協会開発調査総合研究所令和元年度助成研究論文集、pp.235-261